

横浜市戸塚区民文化センター さくらプラザ 情報誌

SAKURA

10周年からその先へ ずっと続く文化芸術

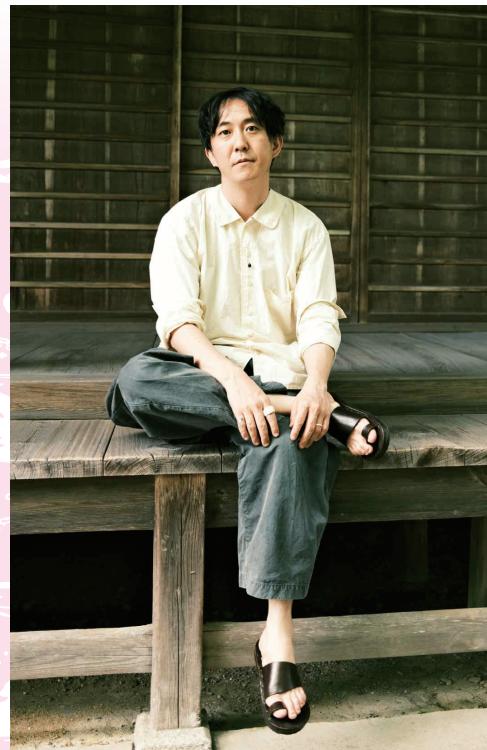
Since 2013



Vol.76
1・2月号
2026.1.1発行



小川 加恵（フォルテピアノ・チェンバロ／企画・出演）



久世 孝臣（語り）

再創造から未来へ受け継ぐ

== INDEX ==

Pick Up Artist

HOKUSAI 葛飾北斎物語

小川 加恵（フォルテピアノ・チェンバロ／企画・出演）

久世 孝臣（語り）

連載

アメリカの文化芸術をもっと楽しみ、
ちょっと詳しくなっちゃおう
vol.10／小田 直弥さん

リレーインタビュー
横浜横断！地域連携コーディネーターに
今を聞いてみた

人は皆 背中で語る…見返戸塚人



Web版

Pick Up Event

さくらプラザ春の芸術祭 2026

特集

第13回区民企画事業

「さくらチャレンジプロジェクト」開催

本誌の二次元バーコードはCookieを使用しています。アクセス解析は匿名で収集されており、個人を特定するものではありません。この機能はCookieを無効にすることで、Cookieを用いた収集を拒否することができますので、お使いのデバイスのブラウザの設定をご確認ください。



小川 加恵

久世 孝臣

～時代を越えて、再創造する～

表現を追い求め続けた浮世絵師、葛飾北斎の生涯を古楽器の響きと語りそしてダンス。最先端のメディアアートで描く「HOKUSAI 葛飾北斎物語～メディアアート×語り×古楽器で綴る～」公演を2026年3月14日(土)にさくらプラザ・ホールで開催する。全体プロデュースを務めるフォルテピアノ・チェンバロ奏者の小川 加恵さん、詩人・語りの久世 孝臣さんのお二人に、公演へ掛けられる想いについてお伺いしました。

一テーマに「葛飾北斎」という画家を選んだきっかけを教えてください。

小川 加恵(以下、小川)—2022年からメディアアーティストの落合陽一さんや映像クリエイターの花房伸行さんと共に、メディアアートと古楽器によるコラボレーションコンサートを継続的に開催しています。千利休の生涯や源氏物語など古典的な題材を通じて、日本の伝統に根差した美意識や精神性の再発見と共に国内外の多くの方々にその魅力や大切さを伝えていきたいという想いで活動を続けています。今回は、葛飾北斎というグローバルに愛され続けている偉人の生き様に私自身が魅了されまして、北斎の絵に何度も登場している「戸塚」という所縁のある地で彼の生涯を描くコンサートを上演するということがとても意味深いことだと感じて、選ばせていただきました。

一北斎の生涯のいつの時代に焦点を当てて、制作をされますか。

久世 孝臣(以下、久世)—小川さんとお話を固めていく中で、部分的にどこかの時代に焦点を絞つて一つの側面だけを描いていくというよりは、彼の生涯を通しての生き様全てを描いた方が良いのではないかと考えています。時代にこだわりを持つよりも北斎の生き方というものが現代に対してどのような影響を与えていくのか、お客様にどのように楽しんでもらいたいかについて考えながら、全編を通して北斎の人生を語っていきたいです。

小川—具体的には、勝川春朗の画号で登場しました19歳から35歳の時代から、宗理の画号を用いた35歳から45歳までの時代、そして北斎という画号をつけました45歳から52歳までの人生を公演の前半で描き、後半では為一という画号の53歳から70歳までの人生から始まりまして、いよいよ「富嶽三十六景」を生み出しました71歳から74歳までの時代です。そして最後に北斎の90年の生涯を閉じるまでの晩年期を描きたいと考えています。

一今回のように、生演奏や語り・映像を共存させるメリットは何ですか。

小川—生演奏の臨場感や語りの情感、映像による視覚的な世界観が融合することで、まるで物語の中に入り込むかのような没入感を体感していただけるかと思っています。例えばですが、静止画として遺されている北斎の絵画の筆致や構図・リズム感などを、生演奏によるエネルギーや迫真的語り・没入感溢れる映像の効果によって、絵画そのものが動的な芸術として再創造される点に面白さがあるのではないかでしょうか。演奏の音のうねりや、語りの抑揚、映像の動きなどの効果によって、北斎の絵画の波や風・生命のうごめきを可視化することで、観客はそのダイナミズムを全身で感じることができます。



久世—小川さんのプロジェクトは葛飾北斎についてただ漫然と語っているではありません。北斎は伝統的な画法や当時の技術を貪欲に取り入れていました。一説によると、ある時期に破門されていたとか、將軍の前で鶏の足に朱肉をつけて歩かせていたなど、多くのエピソードを持っています。代表作の「神奈川沖浪裏」の波の青色も、当時は最先端だと言われていた顔料を使用した絵の具で描かれています。そういったエピソードから、もし北斎が今も生きていたらきっと色々なことに挑戦したのではないかと想像を膨らませています。映像を用いたのかもしれませんし、小川さんがされているような西洋の楽器×日本画という一見アンビバレンスな組み合わせに挑戦したかもしれません。なので、私たちも型にはまって単純に物語を読み聞かせるのではなくて、彼のチャレンジ精神そのものを舞台上で体現していくことで、ようやく「葛飾北斎の人生を描いた」といえるのではないでしょうか。これは北斎の人生を描くうえで、最低限必要なことだと考えています。私自身、普段は音楽家の方と詩の朗読で共演をすることはよくありますが、今回のように古典音楽と偉人の人生というテーマが決まっている企画に参加させていただくことはチャレンジなので、制作を進めながらとてもワクワクしています。

一通常の音楽コンサートとの違いや、難しさはありますか。

小川—語りを入れることによって、物語の方向性を明確にお客様にお伝え出来るようになりますし、音楽で「情感」を表すならば、映像では「空間」を創り、語りで「意味」を担うことで、作品がより多層的にリアリティを持って表現できるようになるかと考えています。

久世—音楽は時間の流れをあやふやにすることが難しく、リズムやエッヂ・テンポが確立している時間芸術の一つだと思っています。曲によっては空間を流れる時間が決まってしまい、それに合わせて語るとその曲の中でしか言葉が存在できなくなってしまいます。曲に引っ張られすぎていてもいけないし、その曲を否定してもいけないし、言葉と音を上手く混ぜ合いながら進めていくような語りの手法にチャレンジしなければいけないと考えています。音楽が「情感」を表すならば言葉は「人生の意味」が強いので、北斎の人生をただ説明するだけではなくて表現の一つとして彼の人生や絵の面白さを伝えていく他に、今回の公演のためだけの、上手く音と混ざる読み方というものが絶対に見つかるはずなの



で模索していきたいです。言葉は意味を伝えるための道具ですが、意味に引っ張られすぎないように、北斎の筆の動きのように自由な感覚で観客のイメージーションが膨らむような仕掛けを紡いでいきたいです。音と映像の懸け橋として、自由に動くことができるのが言葉なので。どのように三者が混ざっていくかというのが今回の見どころの一つですが、ただ人生を追いかけるだけではなくて表現としてどのように聞こえるのかというところも見ていただきたいです。

—改めて、古楽器の魅力を教えてください。

小川一 実は古楽というのは自由が許されているジャンルです。楽譜に書かれていない自由というものが遺されていて、演奏者の即興性や個性が色濃く反映されるので、非常に語りとも相性が良いです。なかでも、古楽器のジャンルとはとても相性が良く、時間的な余白や、情感を多種多様に表現できる可能性を感じています。現代の楽器と比べると響きのパワーや華やかさは少なくなってしまうかもしれません、その代わりにまるで人の声のように自然で、聴いている人の心に寄り添うような温もりが存在します。元々自然な素材でできた楽器だというところをぜひ感じていただきたいです。北斎が生きていた時代そのものの楽器を使用しますので、その瞬間の音色や受け継がれてきた風景というものを楽しんでいただけたら嬉しいです。

—モダンピアノとフルテピアノはどの部分が異なるのでしょうか。

小川一 構造的に全く異なる楽器で、鍵盤数やピッチ、ペダル機構など大きな違いはいくつかありますが、このような違いが生まれた原点があります。モダンピアノは産業革命以降、音量の拡大や音色の均一性を目指し発展した背景がありますが、対してフルテピアノは職人が1台1台の楽器製作を担っていた時代の楽器ですので、いかに音色の多彩さを濃く出せるかという点を目標に発展していたという決定的な違いがあります。今回の公演では、音色の多様さに美的価値を見出していた時代の楽器だということを体感しながら見ていただきたいです。

—この先、古楽はどうなっていくとお考えですか。

小川一 これまで歴史的な奏法や解釈を忠実に再現することが重要視されてきましたが、「古楽」はそもそも過去の音楽ということではなく、時代と共に進化

し続けている現在進行形の芸術です。これからは、当時の音を忠実に再現するだけでなく、現代の感性や技術を融合させて創造的再解釈がされていくのではないかと思っています。

—最後に、お客様へのメッセージをお願いします。

久世一 葛飾北斎は世界中の研究者に研究されている程の人ですが、私は小川さんからお説いていただき、そこからスタートしているのでまだ知識はありません。「93回引つ越しました」とか「長生きをしました」とか、残っているエピソードは破天荒なものが多く、謎に包まれていて、史実かどうか分からぬ面白いものが沢山あります。ですがその中心にあるのは「描くこと」だと考えています。描き続いていると言うのか、描くことしかできなかったと言うのか、描くことをやめられなかつたのか、描くことが好きで仕様がなかつたのか、どの角度から光を当てるかで表現の仕方が異なるとは思いますが、それにしてもずっと描いてきた人だという印象を現状では持っています。これを自由と言つていいのかも分かりませんが、変人奇人のエピソードが多い人です。ただそこに注目する気はなくて、自分の「好き」や「気になるポイント」に常に興味を持ってやり続けていたという姿勢がとても素敵だなと思っています。現代でいう同調圧力のような息苦しい側面もあるような世の中で、北斎のように自分の気になることややめられないことを、社会のルールに縛られずずっとやり続ける、それが変に見えて良いというスタンスは大いに勇気づけられるものです。それが画の凄さと共に伝わったら良いなと私は思っています。

小川一 有名な「神奈川沖浪裏」の「ペロブルー」という鮮やかな青色を出すための、絵の具の種類や顔料の原料、調合の仕方が書いてある画本彩色通という手引書を北斎自身が残しています。その当時、彼の色彩感というものは顔料の革命の成果とも呼ばれていました。貿易で入ってきた輸入顔料を積極的に導入していくことが彼の革命的な部分です。そういった先端テクノロジーと日本の美の融合を図った眼光であったという視点で、既存の価値観にとらわれない新しい価値創造や、新しい表現を追い求め続けた彼の生き様や精神というものを、今回のように古楽・語り・映像・XR技術を融合することで、これまでに見たことのないステージから北斎自身の精神そのものを感じ取っていただけたらと思っています。

取材・構成／石田 佑季

HOKUSAI 葛飾北斎物語



小川 加恵

(フルテピアノ・チェンバロ/企画・演出)

東京藝術大学、オランダ、デン・ハーグ王立音楽院修了。第16回ファン・ワセナール国際古楽コンクール（オランダ）第1位受賞。これまでヨーロッパの主要な古楽音楽祭に招聘されているほか、日本国内においてもオリジナル楽器による室内楽の普及に努め、日本各地のコンサートホールによる主催公演に出演。その他、NHK Eテレ「クラシック音楽館」、NHK-BSプレミアム「クラシック倶楽部」、テレビ朝日「題名のない音楽会」に出演するなどメディアへの出演も多数。また2021年アーリーミュージックエンターブレイズ株式会社を設立、2022年からはメディアアーティストの落合陽一氏とともに古楽器とメディアアートによる新たなクラシック音楽体験事業の創出にも力を注いでいる。

ウェブサイト：<https://www.kaeogawa.com>

2026年3月14日(土) 14:00開演 13:30開場



久世 孝臣

(語り)

主に詩作、舞台作品の演出・脚本を手がけ、近年は詩を使った立体やインスタレーションを発表している。また音楽家とのユニット「言音（ことね）」としても活動。

場所や参加者の表現ジャンルを問わな
い境界線を超えた共同制作得意とし、自身が掲げる「身体性
を持つ言葉」を用い、表現における言葉の可能性、言葉が提示
出来る「意味の領域の拡張」を提示し、名前のない感情が見つ
かる作品を創作している。



公演 HP



さくらプラザ

春の芸術祭 2026

毎年恒例 春の祭典が今年もスタート！ 参加団体の皆さまをご紹介いたします。



毎年恒例の「さくらプラザ春の芸術祭」。2月19日(木)～21日(土)の芸術祭と共に盛り上げてくださる、ホール、ギャラリー、マルシェに参加する計18団体をご紹介します！

様々なジャンルの文化活動が賑わう3日間……見て・聴いて・買って、ぜひお楽しみください♪

※ 2019年度より「アートバザール」より「春の芸術祭」へ名称が変更となりました。

ホール

ピアノから金管楽器まで、様々なジャンルの音楽をお楽しみいただけます！

リピュア

[マンドリンカルテット]



小倉さちことライアーカーのミューズたち
[ライアーアンサンブル]



TriRicca

[サックス三重奏]



Sherry

[ウクレレ演奏]



Celeste

[声楽、フルート、ピアノによるアンサンブル]



マルシェ

素敵なハンドメイド雑貨などの小物作品をお求めいただけます！



Stella
[洋菓子]



ひらり
[ハンドメイド雑貨]



**ヨコハマキズナエン
「Le ciel」**
[イラスト原画・グッズ]



まめまめビーンズ
[ハンドメイド雑貨]



nonoとあざらしさん
[イラスト原画・ハンドメイド雑貨]

ギャラリー

団体・個人で活動する市民・区民が心を込めて制作した作品を展示いたします。



龍樹会
[能面・狂言面]



Atelier Peony Rose
[漆喰の花のアレンジメント]



クラフトまーにゃん
[吊るし飾り・手芸作品]



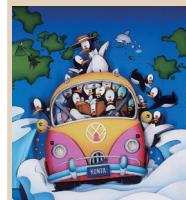
大谷 和一
[絵画]



Art Room Lomiere
[絵画、立体造形、グラフ作品]



Y.Shimura
[透明水彩画]



**シャドーアート
AB キュープ WEST**
[シャドーアート作品]



野田 真知子
[水彩画]

春の芸術祭

さくらプラザ利用団体・アーティスト・区民…アートに満れる3日間

- | | | |
|-----------|---------|---------------|
| ● 2/19(木) | ギャラリーのみ | 13:00 ~ 17:00 |
| ● 2/20(金) | ギャラリーのみ | 10:00 ~ 17:00 |
| ● 2/21(土) | ホール | 14:00 ~ 16:15 |
| ● 2/21(土) | ギャラリー | 10:00 ~ 16:00 |
| ● 2/21(土) | マルシェ | 11:00 ~ 14:00 |

春の芸術祭
HPへ

※詳細はチラシ、
もしくは当館HP
をご覧ください。





第13回 さくらプラザ 区民企画事業

2013年の開館以来、毎年「さくらプラザ区民企画事業」として開催しています。これまでの、戸塚区内で文化芸術活動を営む個人・グループの創造活動推進を目指したプログラムに加え、新たに地域課題をもとにするテーマの設定や、報告会での情報共有の場を設けることで、各団体の持つ文化芸術の「力」を地域に還元することを目的としたプログラムにステップアップしてきました。今年度は「にぎわい」～世代間交流を促す文化芸術事業～をテーマに、戸塚区民によるパラエティに富んだ7つの団体による企画が開催されます。どうぞお楽しみに。

MuScience(ミュージエンス) Music × Sience 2月8日(日) 14:00開演(13:30開場)



プロジェクトを使った楽曲解説と宇宙・自然の講義、ピアノ演奏を交互に展開。音楽と科学の融合で想像力を広げ、世代を超えて楽しめる構成です。宇宙から見た地球の様子について、陸地・海洋・大気に分けてお話をします。

①0歳からの親子で楽しめるコンサート vol.4
②クラシック名曲コンサート vol.4～音と光のはじまり～



杉田 彩穂 (S) 佐々木 ふみ (F) 高井 洋子 (C) 佐伯 水美 (P)

①はディズニーや童謡等なじみのある曲で親子と一緒に楽しめる時間を♪バネルシアターもあります。②はソプラノ、フルート、クラリネット、ピアノで贈る名曲クラシックコンサートです。

曲 目 さくら星変奏曲、月光ソナタ、喜びの島 他
チケット料金 全席自由 前売 小学生以下1,000円
高校生以上1,500円／親子ペア2,000円
※当日券は500円 ※未就学児入場不可
※さくらプラザ窓口で購入可能。残席状況にご注意ください。

団体名 ミュージエンス・プロジェクト
問合せ ミュージエンス・プロジェクト
soyokaze.design.factory@gmail.com

ホール 4F

1月24日(土)

①10:30開演 ②13:15開演 各回15分前開場

リハーサル室 4F

①0歳からの親子で楽しめるコンサート vol.4
②クラシック名曲コンサート vol.4～音と光のはじまり～

曲 目 ①ディズニーメドレー、バナルシアター ウクライナ民話てぶくろ 他
②ショラス:トリチラッヂボルカ、ブッチニ歌劇「トーランドット」おりもではならぬ他
チケット料金 各回全席自由
①大人 1,500円／高校生以下 500円 ※0歳から入場可・2歳以下上級無料
②大人 1,500円／大学生以下 500円 ※5歳から入場可
※さくらプラザ窓口で購入可能。残席状況にご注意ください。

団体名 M's music
問合せ mina.821pf@gmail.com

即興表現ワークショップ 「あの時の私をプレイバック」 1月25日(日) 10:00～16:00(途中休憩有) リハーサル室 4F



参加者の誰かが語った体験をその場で即興劇に。観る人も語る人も演じる人も、心が動く参加型の即興表現ワークショップです。簡単なゲームから始めるので、初めての方も安心して、楽しく参加いただけます。

対象 中学生以上何歳まで (演劇経験不要)
定員 15名程度
参加費 3,500円
※さくらプラザ窓口で参加申込み可能。残席状況にご注意ください。

団体名 劇団いろいろ
問合せ hot.space@icloud.com

腹話術わざあいあい ~腹話術の会さずな戸塚支部5周年記念発表会~ 3月20日(金・祝) 14:00～16:00(13:30開場) リハーサル室 4F



腹話術の魅力は、人形が一人でしゃべっているように思えてしまうことです。腹話術の演技とミニ体験コーナーでその楽しさと素晴らしさを知ってください。

定員 70名(先着)
チケット料金 入場無料(全席自由)
事前申込み制 1月20日から受付開始
団体名 とつかコラボ俱楽部 きずな腹話術
問合せ 080-5532-7852(ワタナベ)

ふれあいコンサート～音のにぎわい～



0歳～高齢者の多世代、障がい者、介助者の皆様に楽しんでいただける、参加型のコンサートです。母娘のピアノ連弾に合わせて知的障がい者の息子が器楽を奏でます。ご一緒に笑顔いっぱい幸せいっぱいのコンサートにいたします。

3月21日(土) 14:00開演(13:30開場)

リハーサル室 4F

曲目 花のシャンソン、虫のシンフォニー、街のお散歩人たち、夢いっぱい! 他
チケット料金 全席自由 一般1,000円、小学生以下500円
※3歳以下無料、障がい者手帳保持者及び介助者1名500円
※チケット発売日については主催にお問合せください。

団体名 アンサンブル・ミルプリラン
問合せ milleprintemps05@icloud.com

皿回しにチャレンジ! ~皿回し×音楽で拍手をもらおう~ 3月21日(土) ①14:00～16:00 ②17:00～19:00 練習室4(創作室) 4F



「皿回し」ってやったことがありますか? 実は、安全、簡単に挑戦できる柔らかいお皿があるんです。子どもから大人まで、はじめてでも大丈夫。音楽に合わせて発表すれば、笑顔と拍手があふれる特別な時間に!

練習室4(創作室) 4F

対象 小学生から大人まで
定員 各回10名程度(先着順)
参加費 1,000円(高校生以下無料)
講師 古谷 正幸(全日本皿回し協会代表)
団体名 皿回しジャブラーまさやん
問合せ jugglermasayan@gmail.com

魔女とその仲間たち展



戸塚区の絵画教室「魔女のアトリエ」の主宰者である魔女とその生徒たちの個性あふれる展覧会です。

その作品群はどれもユニークで面白いものばかりです。

3月11日(水)～3月16日(月) 10:00～17:00(初日12:00～/最終日～16:00) ギャラリー 3F

展示内容 油彩画、水彩画、アクリル画の展示
チケット料金 入場無料
団体名 魔女のアトリエ
問合せ majyo_mayha@jcom.zaq.ne.jp

アメリカ文学からフランス音楽へ エドガー・アラン・ポーの影響

横浜市は世界の8つの地域と「姉妹・友好都市」の提携をしています。その最も古い提携先はアメリカのサンディエゴ市です。私たちの身近には、アメリカ発祥のものがたくさんあります。例えば携帯電話やYouTube、ハンバーガーやコーラ、野球やバスケットボール、ジーンズやTシャツもアメリカ発祥です。加えて、アメリカは音楽や文学といった文化芸術にもたくさんの魅力があります。そこで本連載を「アメリカの文化芸術をもっと楽しみ、ちょっと詳しくなっちゃおう！」と題し、音楽と教育を専門とする小田直弥さんと、アメリカ文学を専門とする土屋陽子さんの2名でお届けします。

前号では、土屋先生がエドガー・アラン・ポー（1809-1849）について書いてくださいました。ポーは、クラシック音楽の世界にも大きな影響をもたらしたため、私も音楽の立場から、紹介をしてみたいと思います。具体的な作品を出しながら書き進めますので、もしよければ、1曲でも、聴いてみてください。

アメリカ人作家であるポーの詩や小説に音楽がつけられた例を考えると、意外にも、フランス人作曲家による作品、例えばクロード・ドビュッシー（1862-1918）による未完オペラ《アッシャー家の崩壊 La chute de la maison Usher》が思い浮かびます。フランス国内では、フランスの詩人シャルル・ボーデレール（1821-1867）がポーの作品を見つけ、翻訳したことによって知られるようになったのですが、ドビュッシーは1889年（27歳）のアンケートにて、好きな散文家としてポーを挙げるほど、若くしてその魅力に惹かれていたようです。ポーの物語に含まれる雰囲気、感情、緊張は、まだ音楽化されていないために自身の手で達成したいと考えていたり、《アッシャー家の崩壊》に登場するロデリック・アッシャーを自分自身と同一視したりと、執着にも似たポーへの情熱があったようです。バレエ音楽《ボレロ Boléro》の作曲家として知られるモーリス・ラヴェル（1875-1937）もまた、ポーの影響を強く受けた作曲家の一人であり、ニューヨークタイムズ誌では「作曲の師はポーであった」と語っています。ポーの作品に音楽をつけた作品は、今日では見つかっていませんが、《夜のガスパール Gaspard de la nuit》の2曲目《絞首台 Le gibet》のように、ポーの影響が指摘される作品は複数存在します。ドビュッシーとラヴェル、そのいずれもがポーに心酔しましたが、ドビュッシーにおいてはその世界観や幻想的な側面、ラヴェルにおいてはポーの文学理論や技巧、美学に惹かれたとされ、ポーのもたらした影響は多様であったようです。この2名の他、デオダード・セヴラック（1872-1921）は、ステファヌ・マルメ（1842-1898）によって訳されたポーの詩《夢 Un rêve》に、浮遊感のある光のような音楽をつけることに成功していますし、アンドレ・カブレ（1878-1925）によるハープと弦楽四重奏のための《幻想的な物語 Conte fantastique》は、ポーの短編小説《赤死病の仮面 The Masque of the Red Death》に着想を得て作曲されています。もちろん、ポーの影響はフランスに留まらず、イギリスではジョン・アイアランド（1879-1962）とアーサー・サマウェル（1863-1937）のいずれもがポーの詩《アナベル・リー Annabel Lee》

に作曲をしており、ロシアではセルゲイ・ラフマニノフ（1873-1943）が合唱交響曲《鐘》にて、ポーの詩《鐘 The Bells》を用いています。

ポーの作品は、どうしようもなく惹きつけられる、強い引力のようなものを感じ、本を閉じてもなお、その世界に包まれているような余韻も感じます。フランスがポーに魅せられている1900年前後、ドイツでは1905年にリヒャルト・シュトラウス（1864-1949）の《サロメ Salomé》が初演され、贅沢の嵐、しかし賞賛を受けました。サロメが、自身の欲ゆえに首を取り、絶命させたヨハナーンに話しかけながらも、愛撫するそのラストは、見るものに強烈な印象を与える一方で、シュトラウスがその場面にあてがった音楽の豪華絢爛な美しさは、目の前で繰り広げられる残忍さとは対極であり、複雑な効果がもたらされます。実は、この作品の台本となるオスカー・ワイルド（1854-1900）の戯曲《サロメ Salomé》は、1893年にパリで出版されています。フランス国内におけるポーの受容が背景にあったからこそ、衝撃的な内容を含むこの作品が受け入れられたのではないかと想像します。

最後に、2019年、ピアニストであり文筆家である青柳いづみさんが中心となって開催された、「エドガー・アラン・ポー生誕210年 ドビュッシー 最後の夢『未完のオペラ アッシャー家の崩壊』」について触れておきます。ご出演されていた歌い手の個人的な下稽古に觸わさせていただいたとき、ピアノで音を出したときの暗く、垂れ下がったようなよどんだ雰囲気、張り詰めた緊張感と絶え間なく変化する場面の動きは、これまでに経験したどの作品とも異なるものでした。青柳いづみさんのYouTubeチャンネルには、当時の貴重なプレトーク、演奏の動画がアップロードされていますので、ご興味ありましたらご覧ください。

小田 直弥

弘前大学教育学部ピアノ研究室助教。東京学芸大こども未来研究所学術フェロー。歌曲ピアニストとしてはイタリア、ドイツ、フランス、日本の歌曲に加え、アメリカ、イギリスの歌曲の演奏にも力を入れている。研究活動は、演奏家のためのマタニティコンサート研究、ヤマハ株式会社との共同研究等、教育活動は合唱団よびごえ（2016～）、MUZAミュージック・カレッジ2023、2024への登壇等がある。



リレーインタビュー 横浜横断！地域連携コーディネーターに今を聞いてみた



第11回 なかじまのぶき 中島 信基さん

左)瀬沼 静子さん
右)中島 信基さん

鳩の森愛の詩保育園

〒245-0009

住所：神奈川県横浜市泉区新橋町765-3

Tel: 045-811-5002

※訪問を希望される場合には事前にお問合せを
ください。

詳細はHPをご覧ください

https://www.hatonomori.jp/hatonomori_info.html#c



このコラムでは横浜市18区で地域の課題解決のために、コーディネーターとして「地域と人と組織」をつなぐ橋渡し役をしている方たちにインタビューを行います。

一ご自身の活動についてお伺いさせてください。

2018年ごろからこの保育園で働いていて、今年4月から主任保育士として管理職の役割をしています。

また、子どもが生まれたことをきっかけに地域で出会ったパパたちと「パパの子育てサークル」を作っています。育休を取得したのが2018年だったのですが、まだその頃はパパの育休というものがメジャーではなかったので、社会的に「パパ」の孤独感のようなものを感じ、サークルを立ち上げました。

今現在私の価値観のようなものは、子どもが生まれ育児に携わっていることに大きく影響を受けています。

—こちらの保育園は地域の人たちの居場所作りに繋がっているかと思いますが、その辺りはいかがでしょうか。

この保育園を運営している法人の理念が「共育て共育ち（ともそだてともそだち）」です。これは子どもを中心で大人が手を取り合い支え合い、成長し共に日々学ぶという考え方です。例えば、卒園していった保護者の方がOB、OGとして日々サポートしていただいている。また園児の親御さんが務めていらっしゃる動物園から出張動物園として動物たちと来ていただきました。

このイベントは保育園の子どもだけではなく



園庭にある山からの景色

く、地域の親子にもふれあいに参加していただけるようにしていました。

このように日常的に保育園という特性を活かし、イベントを通して居場所作りの機会を創出するなど、幅広い世代の交流の場となっています。

—一人ひとりを繋ぐ役割ができる方はどんな方でしょうか。またどのように育てることができると思いますか。

私自身はまだその役割をほとんど担っていませんが、法人の理事長 濑沼 幹太を見ていて思うのが、様々な会議や地域の会合等に積極的に参加をして、顔を覚えてもらう活動をしています。これはとても大切だと考えています。また園長であり、今に至る鳩の森の全てを始めた、せぬママ（瀬沼静子）の元には、助けたい人、助けを求めるなど様々な人たちが自然と集まってくれるということです。これは人間力とでもいうのでしょうか。

とてもお話し好きで時におせっかいで……。（笑）

私も勉強しているところなので、育てるとなると正解はわかりませんが、「一緒に行動する」、「時間を過ごす」、「向き合って伝えていく」、これが大切ではないでしょうか。

ただ、世代が異なると、同じ伝え方をしても世代によって捉え方がかなり違うように感じています。

特にこれから先は生き方や働き方に対する考え方も多様化していくとも考えています。地域の中やこういった場所には自然と「人とひとを繋ぐ」役割をしている方がいるように思います。

そういう方々と連携していくのも一つかもしれません。

顔見世

人は皆
背中で語る…
ミカエリトツカジン
児返戸塚人
戸塚の魅力あふれる方々を
ご紹介するコーナーです。

其之
七十四

—9年ぶりの東関東吹奏楽コンクール金賞おめでとうござります。金賞の秘訣や取り組んだことを教えてください。

私が2年生のときは金賞ではありますけれども大会止まりだったのですぐ悔しくて、このままいいのかなと思い、部長になってからは目標に向けて試行錯誤しました。まず幹部で話し合ったのが「先生との距離を近づけよう」ということです。テレビの強豪校特集とかで見る、先生と生徒と一緒に頑張っている雰囲気がすごくいいなと思ってそういう関係に少し憧れがありました。

顧問の田澤先生はとても優しくて、生徒の自主性を大切にしてくれる方なんです。その分、お互いに気を使ってしまうところもあるって、もっと仲良くなろうと、お昼の時間にミーティングをしたり、雑談を交えながら話すようにしました。徐々にお互いの考え方を共有できるようになっていましたと思します。

信頼関係ができる中で、ホール練習など外での練習を取り入れてくださるようになって、今年度はすごく密な関係が築けたと思います。

私たち3年生の代はとにかく部活が好きで、真面目に取り組む子が多かったです。「信頼」や「意思の疎通」を大事にして、3年生だけだったのでメンバーだけの話し合いもたくさん重ねてきました。みんなで同じ方向を向いたのは、その積み重ねがあったからだと思います。

—コンクールに向けた活動の中で印象に残っていることはありますか。

やっぱり全員が同じ温度感ではない時期もありました。1・2年生にもコンクールに出る子がいて、3年生にとっては最後のチャンスだから下の学年には来年がある、全員が本気で上を目指しているのかどうか、気持ちのズレを感じることもありました。

それを乗り越えられたのは、練習はもちろん、たくさん話し

横浜市立戸塚高等学校吹奏楽部を代表して

しみず ひまり
部長 清水 日葵さん

《信頼と絆の力で》

合ったからだと思います。特に今年の合宿はすごくいいものになったと思っていて、全体練習でもパート練習でも「こうしたい」「こうしたほうがいい」と意見を出し合しながら、演奏に反映していました。練習だけではなく、「話すこと」「関わること」を大切にしていたのが大きかったと思います。

—金賞を受賞したときの気持ちを教えてください。

正直、今でも悔しいです。

中学から高校まで一緒にやってきた子と「全国行きたいね」って言い合ったり、部長が表彰式で呼ばれている姿を見たいと言ってくれる同期もたくさんいたので全国に行けないとかったときは、みんなで泣きじゃくりました。私ももうこのメンバーでできなんかないんだ、上の大会は目指せないんだと考えたら、涙が止まらなかったです。

でも、母から終わわたあとはしっかりと笑顔で感謝を伝え終りなりさって言ってくれたので、最後はしっかりと笑顔で、みんなに感謝を伝えることができました。

一部員である1・2年生へ伝えたいことはありますか

本心を言うと今練習できていること、まだまだ部活ができることがうらやましいです！

後輩たちはとにかくやりたい部活をやってほしいと思います。ただ今の吹奏楽部があるのは、現役だけじゃなく、卒業生の協力やつながりがあってこそなので、先輩たちの想いを受け継ぎつつ、自分たちらしい吹奏楽部を作っていてほしいです。それでも全国に行きたいと思うなら、それは今の100倍頑張ってほしいです！演奏会に行ったり、いろんな音を聴いたりしながら、自分の感性を広げてほしいです。

—戸塚の皆さんに一言お願いします！

地域の施設やイベントでもよく演奏させていただいていると思います。戸塚は音楽活動をされている方も多くて、講師に来ていただく機会もあるので、そうした環境に感謝しています。これからも戸塚高校吹奏楽部の応援をよろしくお願ひします。3月には定期演奏会があるのでぜひ聴きに来ていただけたら嬉しいです！

戸塚人に逢いに行こう！

横浜市立
戸塚高等学校
吹奏楽部

活動の様子や演奏会の詳細は
Instagramにて配信中!
@totsuka_winds



次号の戸塚人は…？

この後ろ姿から何處のどなただろうと想像してみてください。次号では戻り返りポーズでお顔を公開します！

さくらプラザコンサートスケジュール

主催

こと LEO 箏リサイタル

全席指定
一般 3,500円
横浜市民 3,000円
EX(通常・先割引) 2,000円
学生 1,500円



1/10(土)14:00開演 (13:30開場)



LEO (箏) 林 正樹 (ピアノ) U-zhaan (タブラ)

会場 ホール

さくらプラザ 春の芸術祭 2026

参加無料

さくらプラザ利用団体・アーティスト・区民...アートに満れる 3日間

関連事業

*各講座申し込み開始日: 1/22(木)14:00~

2/18(水)	ワイヤーと樹脂で作る 透明のお花 アメリカンフラワー体験	定員10名程度 参加費:500円	10:00~12:00
2/19(木)	ホールの舞台裏を覗いてみよう! パックステージツアー	定員10名 参加費:無料	9:30~10:30
2/21(土)	ウクレレ体験ワークショップ	各回定員10名 参加費:無料	①9:50~10:40 ②11:00~11:50 ③12:10~13:00
練習室3			
2/19(木)	ギャラリーのみ 13:00~17:00	※詳細はチラシ・ ホームページをご覧ください。	
2/20(金)	ギャラリーのみ 10:00~17:00		
	ホール 14:00~16:15		
2/21(土)	ギャラリー 10:00~16:00 マルシェ 11:00~14:00		

*春の芸術祭HPへ

メディアアート×古楽器×語り×コンテンポラリーダンスで描く HOKUSAI 葛飾北斎物語

XR体験席 5,000円
一般 3,000円
横浜市民 2,500円
学生 1,000円



3/14(土)14:00開演 (13:30開場)

会場 ホール



らららん♪ドレミシリーズ Vol.31

0歳からのコンサートデビュー♪

~ヴァイオリンとギターとみんなで!奏でよう♪音の時間~

全席自由 各回 500円 *0歳から有料

電話予約開始 1/17(土)14:00~

3/17(火) ①10:30開演
②11:45開演 (各回15分前開場)

会場 リハーサル室



参加無料 第13回区民企画事業報告会



区民企画事業に参加いただいた全7団体による活動を、それぞれの団体とさくらプラザのスタッフによる対話形式で振り返ります。

電話予約開始 2/13(金)14:00~

3/28(土)14:00開始 (13:30受付開始)

会場 リハーサル室

申込み 電話もしくは Web 予約
フォームより申込。

定員 30名 (先着)



編集後記

新年あけましておめでとうございます。

2026年の干支は「丙午」。

勢いとエネルギーが満ちて、活動的な年だそうです。新しいことを始めようと迷われている方は思い切ってチャレンジしてみてはいかがでしょうか?さくらプラザは地域の文化芸術の活動拠点としていつもお待ちしています!

新春のさくらプラザは「LEO 箏リサイタル」「新春さくらプラザ寄席」で華やかに始まります。

本年もよろしくお願い申し上げます。

(館長 小林君江)

チケットはお電話 (045-866-2501) でご予約いただけます。(一部除外あり)
詳細は各公演チラシをご覧ください。出演者・曲目などは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
※学生券は公演当日に学生証を必ずご持参ください。※チケット料金は総額表示です。

新春さくらプラザ寄席

笑う門には福来たる。新春初笑い!!

全席指定

一般 3,500円
横浜市民 3,000円



1/24(土)13:30開演 (13:00開場)

会場 ホール

春の芸術祭応援プログラム 名曲サロンシリーズ Vol.44
さくらプラザサポートアーティストによる
アンサンブルコンサート



全席指定
一般 1,000円



2/19(木)
15:00開演
(14:30開場) 休憩あり
会場 ホール



こどものための芸術の学校 舞楽ワークショップ

講師: 豊 剛秋 (雅楽演奏家) 受付開始 1月12日(月)~2月16日(月)必着

参加無料 *詳細はホームページをご覧ください。

3/7(土)・8(日) 10:30~12:30 (10:15開場)

会場 リハーサル室



共 催

下記共催公演のチケットはさくらプラザでは窓口のみ取扱い

コンセール・アミティエ

音もだちコンサート Vol.6

クラシック音楽と童謡で紡ぐ楽しい時間♪

出演: 阿世知 路子、北村 真紀子、吉府 充希子
(リトミック＆ナビゲーター、ピアノ、企画)

全席自由 各回 前売り 500円/ 当日 800円

*0歳から有料

主催: コンセール・アミティエ

2/26(木) ①10:30開演 ②11:45開演

会場 リハーサル室



戸塚区演奏家協会によるガラ・コンサート

とかのん Vol.11

~22人の音楽家が描く、戸塚発・未来へ響くハーモニー~

出演: 戸塚区演奏家協会 アーティスト
(ソプラノ、ヴァイオリン、チェロ、フレート、ピアノ)

全席自由 前売り 2,000円/ 当日 2,500円

主催: 戸塚区演奏家協会

3/1(日)14:00開演

会場 ホール



TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F

event@totsuka.hall-info.jp

<https://totsuka.hall-info.jp>

さくらプラザ 検索

*通信料が発生します。



戸塚区民文化センター さくらプラザ